

サービスは、同法人のホームページから「友だち」登録して利用できる。安否確認の受信頻度を「毎日」や「2日以内に1回」などと設定し、届いたメッセージ上の「OK」をタップする仕組みだ。24時間以内に反応しなければ、メッセージが自動で再送信される。さらに3時間経っても応答がなければ、事前に登録した本人や親族の連絡先に電話が入る。すべて紺野さんが電話をかけているという。

弟のような孤独死減らす

独り暮らしをしていた弟が自宅で「孤独死」を遂げた経験から、江戸川区の紺野功さん(61)は、NPO法人「エンリッチ」(同区)を設立し、単身者に見守りサービスを提供している。自ら開発したシステムで、利用者に無料通信アプリ「LINE(ライン)」のメッセージを送り、返信の有無で安否を確認する。紺野さんは「現役世代も孤独死するリスクがある。弟のような最期を減らしたい」と話した。

(王美慧)

LINE活用「見守り」開発 紺野功さん



見守りサービスの画面を示す紺野功さん

弟、由夫さん＝当時(51)＝が平成27年2月、マンション自室で遺体で発見された。独身で、死後1週間が経過。部屋に暖房器具はなく、死因は低温体温症だった。警察に「何らかの原因で倒れ、しばらく生存していたかも知れない」と伝えられた。

生前の田代さんと最後に会話したのは、亡くなる3日前。約1カ月前に飲酒をめぐつて母親と口論になつた弟を中心配し、電話した直後だつた。

「もし電話のタイミングが少しでも違えば、倒れたことには気付き、弟は助かったかもしない」

由夫さんは自宅で、ノックエアの開発などをを行っていた。仕事机の足元には飲みかけの焼酎の4リットルボトルが置かれ、冷蔵庫には数カ月前の食べ物が残っていた。室内は雑誌や新聞が山積。遺体は80歳を過ぎた老人に見えるほど瘦せ細り、母親は「由夫じやない」と泣き崩れた。

家族でも疎遠に

孤独死について、全国の件数をまとめた統計はないが、都監察医務院によると、令和元年に23区内で自宅で異状死した単身者は5554人（男性3868人、女性1686人）と3年連続で増加。日本少額短期保険協会が同年にまとめた「孤独死現状レポート」によると、孤独死事故48人のうち男性が8割と

行政の協力必要

課題も残る。緊急時に連絡した親族が高齢だったり居住地が遠方だったりして、駆け付けることが困難なケースがある。また、利用者の中には緊急連絡先に登録できる身寄りや友人がおらず、記入欄が空欄の人も少なくない。

そうした現状について、紺野さんは「もしもの時に駆け付けて本人の安否を確認する人が必要。そのためには、行政の協力や全国各地のNPO法人との連携が不可欠で、現役世代の孤独死対策を積極的にやらなければならぬ」と訴えた。

680人（2月現在）が登録し、40～50代が半数以上を占める。

行政の協力必要

A photograph showing a cluttered room. In the foreground, there's a large pile of papers, boxes, and plastic containers. Behind them, several cardboard boxes are stacked, some labeled "FCC". To the right, there's a shelf with books and other items, and a bicycle wheel is visible on the far right.

紺野功さんの弟で自室で亡くなつた由夫さんの部屋は、新聞や荷物などが積み上げられていた

圧倒的に多く、59歳以下は4割。紺野さんは「家族がいても疎遠になつている人は多い。今後、単身者の増加に伴い、孤立化は進む続ける」と。

東京 TOKYO

東京總局
〒100-8077
東京都千代田
上野町1-2

電話 03・3275・8
FAX 03・5255・6
shuto@sankei.co.jp
広告 03・3275・8

法言 03-3273-5
購読申し込み
0120-70-30
配達・集金
0120-34-46
紙面・記事
0570-0464

(17日)
四月六日

TOKYO まち・ひと 物語

おゆみ

月齢
日出 6
日入 17
月出 9
月入 22
満潮 { 7 20
干潮 { 1 14
中潮 (

新型コロナウイルス
都の電話相談窓口

(ナビダイヤル

0570・5505
聴覚障害のある人
ファクス

受付時間(土、日、休日を除く)